

2023年5月7日（復活節第5主日、A年）

牧師メッセージ

「業を行う者とされている」

（ヨハネによる福音書 14:1-14）

司祭ヨセフ太田信三

「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」とあります。信じて、主イエスと神との交わりに迎えられた者は、主イエスが行うよりもさらに「大きな業」を行うようになる、ということです。ほかでもない、主イエスがこの世に生きた時代から 2000 年後を生きるわたしたちクリスチャンも、「大きな業」を行う者とされている、ということです。そんなことできない、できていない、と思うかもしれませんが。しかしたとえば、主イエスの愛に動かされ、誰かに優しくしようとするとき、それはもう「業」を行なっているのです。ある人があなたと出会って、優しさを感じたなら、その人はあなたを通して主イエスの、神の優しさに触れたのです。あなたの業を通して主イエスに出会う、み言葉が分かる、ということが起こる。主イエスと神との交わりにあなた自身が生かされているなら、あなたを通してその交わりに人が迎え入れられる。だれかを赦そう、愛そうと大げさに構えずとも、今日一日を感謝して過ごそう、クリスチャンとして、主イエスの愛によって生きようとする日々の営みのなかでなされる一つ一つが、「業」にほかならないのです。たしかに、その一つ一つは小さなものかもしれませんが。しかし、かつて地中海地方の小さなクリスチャンの群れでなされた小さな「業」が、2000 年後の今、世界中に伝播し、大きな「業」となっているのです。この現実を目を向けるとき、主イエスがおっしゃったことが「本当だ」と頷かずにいられません。わたしたちはこの闇が支配しているようにすら感じられる世界のなかで、また、心騒ぐ日常のなかであっても、主イエスを信じ、その道において愛と赦しに与るなら、光の力が与えられるのです。そして、その力によって、たとえ小さくとも、闇のなかで光の業を行うことができるのです。

「わたしは道であり、真理であり、命である。」

これが、十字架に向かう主イエスがなんとしてでも弟子たちに伝えたかった言葉です。わたしたちの救い主は、わたしたちが心騒ぐことを放ってはおかず、主イエスと神とともに「住むところ」を用意するために命を捨ててくださり、そこにいたるための道にまでもなったださる方です。心騒ぐこともある。どうにもならない後悔にとらわれることもある。しかし、「信じなさい」と主イエスは言われています。主イエスの息吹を受け、信じる者として、光の中を歩むことができますように。